

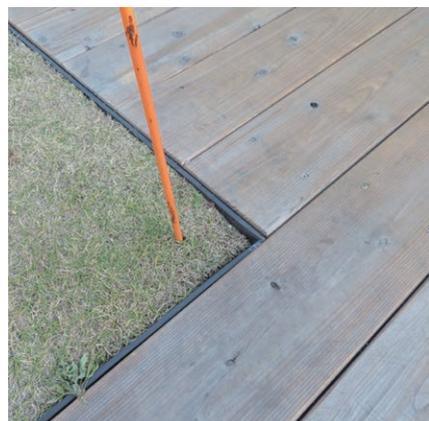
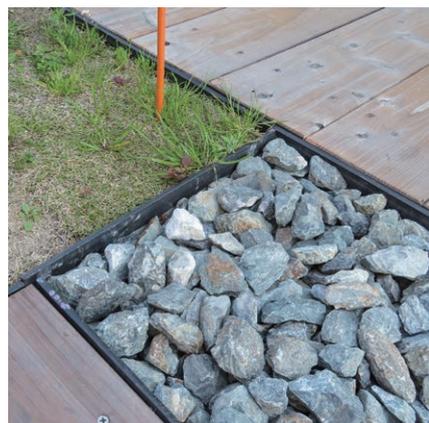
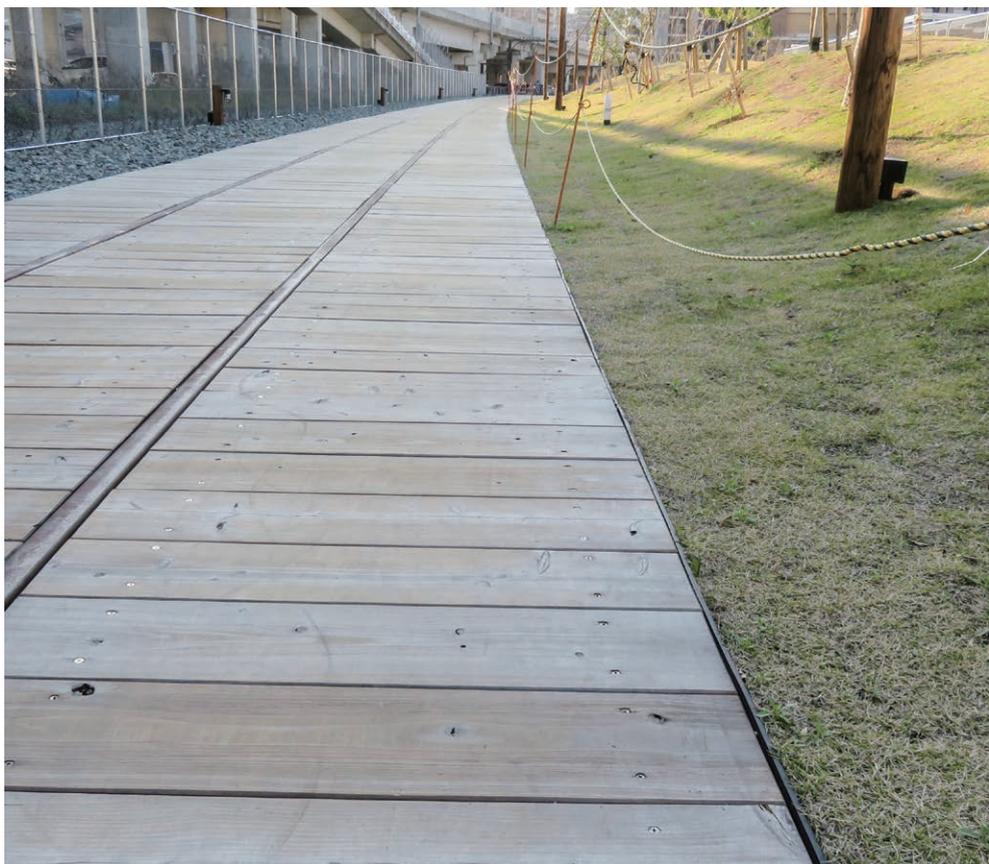
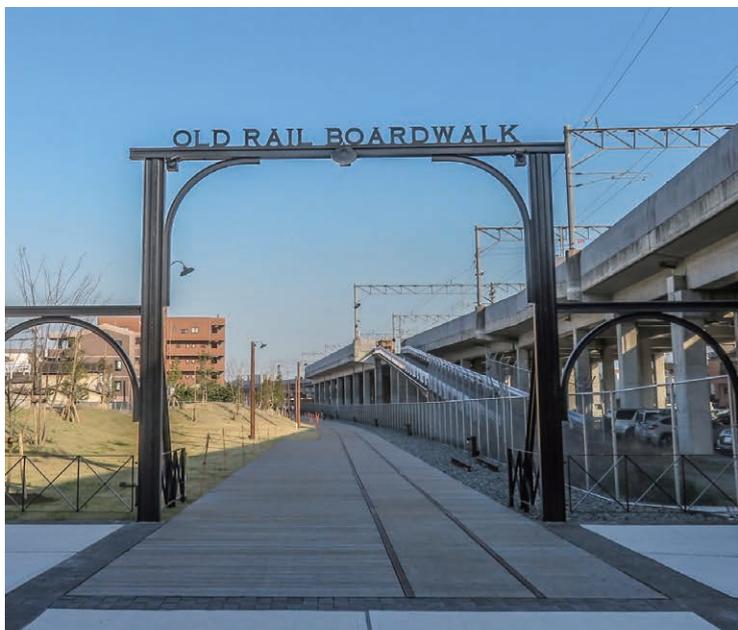
「線路敷ボードウォーク広場」 大分駅東側 鉄道残存敷

JR日豊線の高架化で生じた大分駅東側の鉄道残存敷（線路跡地）で大分市が進めていた公園化事業「線路敷ボードウォーク広場」に「GRCエッジボード」を納入しました。

広場は日豊線北側にあり、長さ440メートル、幅15～26メートルで広さは約1万平方メートル。鉄道が走っていた場所という記憶を後世に伝えるため、古いレールを設置し、周辺に市内産を中心としたスギのウッドデッキを張り、自由に散策できるようにしてあります。

ウッドデッキの横には砂利をが撒かれ、芝生の小山の間に、ベンチや照明が設置されています。

「GRCエッジボード」はウッドデッキ、芝生、砂利の間に設置されています。よく見ないと見逃してしましますが、縁切り材として効果的に使用された現場となっています。



製品名 : GRCエッジボード
 製品数量 : H150用 660m、H180用 30m
 現場 : 大分県大分市
 工事名 : 鉄道残存敷整備工事
 発注者 : 大分市役所